

日本発ドイツ便り～ドイツ人の DNA

前回のまじめなお話につき、今回は…。
この真相が分ったときは、私は素直に感動しました。
長年のナゾが解けた気分です。

と、前置きはほどほどに。

ドイツの国民的飲料といえば、間違いなく Bier(ビアー:ビール)です。
世界で初めて食品関連の法律をつくったのが、ドイツ人。その法律が「ビール純粋法」。
制定されたのは、なんと 1516 年。ビールの製造には、大麦、ホップ、酵母、水以外を使っては
ならない、というもので、今でもその法律は守られているというもの。(ということは、米やコーン
スターチの入った日本のビールは、ドイツではビールとは認められないんですね。)

ビールの歴史はさておき、ドイツの街でよく見る風景
おもむろに鞆からビールを取り出し、飲んでいるひと。
飲み終わったビールのピンを、きちんと鞆に直しているひと。
どちらも日本ではあまりみない風景ですね。

日本ではビールといえば、圧倒的に「缶」ですが、ドイツでは圧倒的に「瓶」です。(昔は缶もあ
ったけど、ある政治的・環境的理由により、瓶になりました。詳しい話は省略)
瓶ビールの大きさは、一律 500ml。スーパーで買えば、大体一本 1 ユーロ程度です。

瓶といえば、当然栓がされています。缶ビールと違って、指一本で開けられるものではありません。
普通は「栓抜き」を使いますよね？

で、道や公園でこれだけビールを飲んでいる人がいる = みんな自前の栓抜きなり、栓抜きもつ
いたアーミーナイフでも常時携帯しているのだと、私はずっと思っていました。
でも、実はそうではなかったのです…。

先日、ケルンでのある日、ライン河沿いを久々に会った友人と散歩していました。途中の売店
で Kölsch(ケルシュ:ケルンのビール)を一本購入。しばらく散歩してその辺に座って、飲もう
か?となったとき、気になったので「栓抜き持ってるの?」と聞くと、なんでそんなこと聞くの?と
いう感じの意外な反応。しかも隣に座っているひとに「ライターある?」なんて聞いているじゃない
ですか?こっちの「??????」顔を横に、次の瞬間、栓の空いたビールが…。

なんでも、ドイツ人は 12-13 歳にもなれば教えなくても、橋の欄干でもライターでもベンチの角
でも、ちょっと固いもんがあれば、ビール瓶の栓を開ける方法を身につけるのだそうです。ドイ
ツ人の DNA 恐るべし!これを聞いて、素直にものすごく感動したのは言うまでもありません。
(ドイツ語では、DNA じゃなくて DNS です。)



ビール屋さんの風景。このお店の名前は確か Tankstelle(タンクシュテレ=ガソリンスタンドのこと。)だったように記憶しています。なかなかいいギャグです。値札の上の段が1ケース(20本)の値段。下の値段が一本買ったときの値段です。ビール好きには天国ですねー。

よく「ドイツにはビールとソーセージしかない」って、ばかにする人がいますが、その両方が、ほかには比べられないほど、種類が多くて、美味しい!となると、これはもう立派な食文化だと思えますけどね~。

ところで、道でビールを飲んだあと、瓶をゴミ箱はおろか、道になんて捨てるドイツ人は一人もいません。ビールをはじめ、瓶やペットボトル(PET:ペー・エー・テーと呼びます)はすべて、購入のときに、Pfand(プファンド:保証金)を取られているので、必ずお店に返しに行きます。たまに捨ててあると、ホームレスの人があつという間に持ってってしまうので、結局捨てられることはないのです。もちろん、回収率100%なら、リサイクル率も100%に近くなる、ということで、環境にもやさしい瓶なのでした。

ビール片手に、河沿いを散歩、お肉屋さんの店頭で、焼き立てソーセージと一緒にビールを買い食い。いやぁ、こんなことができるのは、やっぱりドイツだけでしょう!(私は買い食い好き)さすがにDNAは真似しようたって、簡単にはいきませんから、栓抜きはお店で借りて。ビール好きさんには是非試してもらいたいですね。以上、ドイツ人のDNAに関する新発見のお知らせでした!